（1）　（明治25年3月28日第3種郵便物認可・昭和24年2月17日運輸省特別扱承認第16号）　（日刊）

上毛新聞

郵便番号371　前橋市古市町1−50−21
電話（027）251−4341（代表）
編集3463・4344
広告3463・4344
出版3432
販売3434・3435（黒地）3363
上毛新聞社　1987

ハッ場ダム　来年2月から現地調査

町と建設省が調印

リゾート法申請で知事　吾妻地区を最優先

建設省の猪瀬調査の受け入れをめぐり、一年余にわたって揺れ続けてきた吾妻郡長野原町のハッ場ダム建設問題で、同省と長野原町による「現地調査に関する覚書」などの調印式が十八日、同町立西中学校で行われ、来年二月からの調査開始が決定、ようやくダム建設へ向けての実質的な第一歩を踏み出した。調印後、樋田富造町長は「水没関係住民が本当に安心できる移転地が整備されるよう、県と国に強く訴えた。悲劇を繰り返してはならない」とあいさつし、県と国が進める地域づくりを進める「上毛論」。また、立会人としてあいさつした清水知事は「地元との協議事項を最大限尊重し、活用される地域づくりを進める」と強調。また、立会人としてあいさつした清水知事は「長野原町を中心に吾妻地区を本県のリゾートゾーンの適地として国に申請する」と発言、国の総合地域整備法（リゾート法）に基づく本県の地域指定の申請では、同地区を最優先する方針を表明した。

調印された内容は、樋田町長と志水治長が取り交わす「現地調査に関する協定書」町の水没予定地区（川原畑、川原湯、林、横壁、長野原）代表と同省八ッ場ダム工事事務所長による「立入協定書」、さらに細則を定めた「覚書」。

調査内容は水没者の代替地などの生活再建計画の鉄道、国道、県道の付け替え③ダムサイト・などに関する地形や地質の調査が中心で、協定書では調査の基本的な進め方を定めている。

建設省は昨年九月、協定書案を長野原、吾妻両町に示したものの、長野原町は八月に合意した。長野原町は水没戸数の多い川原畑地区の反発などと、折衝が難航していた。

調印式には、町、県、建設省のほか地元住民ら約三百五十人が出席。調印を終え、樋田町長と志水治長が握手する。と、会場から一斉に拍手がわ

調印後、樋田町長、小林議長、男同町議会議長のあいさつに「言い表せない。われわれの続いて、志水五地区を代表し川原畑地区の豊田士区長が「ダム問題が発表して二十年余。

この間の住民の苦しみは言葉ないというのが地区の共通認識。今後も重大な局面が想されるが、国はもっと信頼関係を大切にしてほしいと訴え、吾妻地区に知恵と活田の部を加え申請する意向を示した。

将来への不安は、皆さんの想像を絶する。生活基盤の再建が第一だが、国は問もしてい

問が山積していることをうかがわせた。

また、清水知事は調印式後の記者会見で「今後は協議問題なども、協力者を非協力者とするくらいの国の姿勢が必要」と強調、国の規定で約十五万坪とされるリゾート地域指定では「吾妻全域で約十五万坪だが、利根・沼田地域の八万坪を考えているとして、吾妻地区に利根・沼田の一部を加え申請する意向を示した。

検証87

足尾線

実った沿線の熱意

来秋には新会社発足

十月二十六日、国鉄の分割・民営化をはさんで揺れ続けたJR「足尾線」は、この日開かれた第八回特定地方交通線対策協議会で、六十四年春から第三セクター鉄道として運営していくことを、全会一致で決定した。存続期限問題を発足から五年余、同盟会をの同盟会の代表の住民が行ってきた乗車運動の成果が実った。無量、と振り返る「万歳！」の対応を迫られるのは国か、正念場とされたから」と唇を噛んだ。

第3セクター

国鉄再建に赤字ローカル線（特定交線）の廃止基準が了承され、同線の廃止方向が示されたのが五十六年三月。国鉄としての経営存続に積極を かけた「特定第業運動」も十人乗車（五月）が成果をあげ、対策協議会も教度にわたって中断。そして、分割・民営化後の新会社は将来地交線化後の新会社は将来地交線を引き継がないとする国鉄再建理案の「最終答申」（六十年十月）と相前後し、「貨客一体」の存続を目指す方向転換を迫られたが、軌道として存続が実現したのは六十年十月。

国鉄再建理案の「最終答申」は、「特域の経営性に望まれる」と地方交通線対策協議会で、月、が成果をあげ、対策協議会も教度にわたって中断。

◇重要◇　勢多東村、西上会、古河関君夫青年部長、古河の搬送発表の時は、本当に先行き不安に陥しました。イベント面、特別乗車運動なども通常にかかわってきましたが、終わりなき戦いこいわれた存続運動が「応の決着を見て、正直、ホッとした気持ちです。こ

すむ中で、古河鉱業の貨物輸送量発表にショッキング な出来事もあった。

不安と期待をいだきながら、存続運動は地元となく

過疎化も相乗がかかる。存続は「供たちの責任者」とも言われかねない。

「ダイヤの関係で、冬は星を見て登校し、星を見て帰る子も多い。新ダイヤとなれば、四時半までに間に合わない。

これからは、なお一層の盛り上がが大切、他市町村の青年組織とも協力体制ができつつあります。

勢多・東中学校は生徒百六十五人中、七割近い百八人が足尾線通学者。松原勝寿校長は、廃路がなくなれば、

過疎化も相乗がかかる。存続は「供たちの責任者」とも言われかねない。

「ダイヤの関係で、冬は星を見て登校し、星を見て帰る子も多い。新ダイヤとなれば、四時半までに間に合わない。

新会社では、桐生―大間○行短縮され、七十八～八十分となる。

将来にわたっての観光対策は営業開始後十三年目、入

大幅に輸送力がアップし、「一日」の所要時間も約二十分短縮される。

だが、直面する問題は山積している。

だが、直面する問題は山積している。

特に、収支試算では、新会社は年度営業に長期赤字の見通しが、「観光経営」と、重点置かれることとなる。

しかし、「観光経営」と、重点置かれることとなる。

ところが、「観光経営」と、ところがそこに、「運賃の値上げ」が、「観光経営」と、ところがそこに、「運賃の値上げ」が、

特に、「観光経営」と、特に、「観光経営」と、

社、十分路線の収支状況（昨年末）を発表したが、三社が黒字を計上、六社が計画の赤字幅を縮小するなど、順調な滑り出しを遂げた。

しかし、「観光経営」と、しかし、「観光経営」と、

重点置かれることとなる。

ところが